

Underground Shopping Center TENJIN CHIKAGAI, Fukuoka
Ceiling construction, Aluminum article of cast metal

Makoto Hanamura
Showa Manufacturing Co., Ltd.

九州・福岡における商業の中心地、天神。その中心に位置する天神地下街は1976年の開業当時から多くの商業施設と交通機関を結ぶ天神の大動脈です。開業から29年目を迎えた今年2月、この天神地下街が「新天神地下街」として南へ延伸されました。

そもそも天神地下街は、天神地区の交通渋滞を緩和するために、福岡市の都市計画に基づいて開発されました。単に地下道を作っても、魅力的な街づくりにはならないとの認識から、地下街とすることが求められました。さらには、単なる商業施設ではなく、街そのものを作ることが目標となりました。また、地下には地下の良さがあることを意識し、地上の模倣とならない街づくりが進められ、1976年9月に開業しました。更にその5年後には中央広場が地下鉄空港線天神駅と接続し、福岡に欠かせない、都市インフラとしての役割を果たしていくことになったのです。

29年後の今年、天神地下街に接続している地下鉄空港線天神駅と地下鉄七隈線天神南駅をつなぐ目的で、延長290m、幅46mの新天神地下街が誕生しました。新天神地下街の環境デザインを手掛けたのは、天神地下街のデザインも手掛けた、T S ' Aの佐藤哲哉氏です。新天神地下街においては、コンセプトとデザインの両方ともに、既設の「継承」が最大の特徴です。それは1976年当時のテーマの単なる復元でもなく、焼き直しでもない、継承しつつも新たなオリジナルを提案することでした。

既設のテーマを継承する上で重要なファクターとなったのが「地下における光」でした。計画的に計画された街に、計画的な店を出店する。そのためには街区全体に光の序列が必要です。地下の南北に縦貫する商業街路は、簡潔な一本の「光の軸」として捉えることが可能であり、それだけでも魅力的です。既設の街、新設の街も光の軸線としては一体ですが、お互いの街区が独立性を維持しながら、全体としてテーマを共有していることが大切でした。

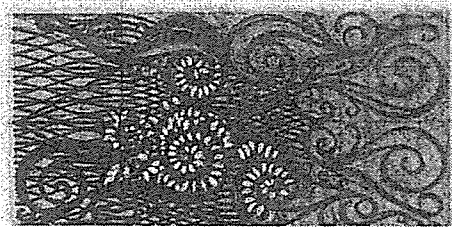
環境デザインの段階において、その既設の光の軸をそのまま「双つの光跡」として継承し、新設の街区には2本の街路と三つの広場がゾーニングされました。ほぼ左右対称の形を持つ空間構成です。その東側



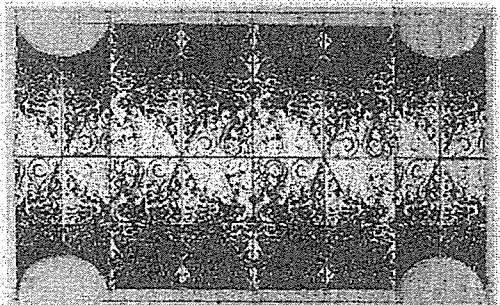
天神地下街平面位置図



既設天神地下街



葉梢の街路天井ラフスケッチ①



葉梢の街路天井ラフスケッチ②